

No.795 February 2023

ASAHI MACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち

2023

2

No.795

試行錯誤の日々
未来を見据えて一歩ずつ

長野オリンピック スキージャンプ競技 金メダリスト

ふ な き か ず よ し 船木和喜氏が朝日町に来る！

第35回 朝日町生涯学習推進大会

2月26日(日)

まちづくり活動へつながる学習意欲の向上と定着を図り、生涯学習と協働のまちづくりをより一層深めるため、3年ぶりに「朝日町生涯学習推進大会」を開催します。

船木和喜氏による記念講演をはじめ、各地区の公民館・文化教室などの団体による展示や発表を行います。どなたでも、ぜひご参加ください。

事前予約不要

▶問合せ先・・・教育委員会 教育文化課 ☎0237-67-2118

program

13:00 受付

13:30 開会

- ・朝日町スポーツ協会表彰式
- ・こどもの文化活動表彰式

ステージ発表

朝日町女性文化教室

第43回女性まつり

- ・おどり教室
- ・大正琴教室

講演会(トークショー)

長野オリンピック
スキージャンプ競技
金メダリスト

船木 和喜 氏

16:00 閉会

フォーラム展示

- ・生涯学習活動の紹介・小中学生の絵画、書道等の入選作品展示
- ・各自治公民館報の展示・中央公民館、地区公民館の活動紹介
- ・華道教室・刺し子教室・書道教室・クラフト教室の展示発表

ASAHI TOWN × MIZUNO 共同事業



朝日町は、平成28年3月からスポーツ用品メーカーの持つノウハウを地域活性化につなげることを目的に、ミズノ株式会社と総合的なまちづくりの提携を結んでいます。

今回、長野オリンピックスキージャンプ競技金メダリスト船木和喜氏を招き、講演会を開催します。

船木 和喜 氏 プロフィール

10歳からジャンプを始め中体連で自己初の日本一になった。その後小樽北照高校に進みインターハイ3位、2位、1位と結果を残す。高校時代の好成績で実業団チーム入り。その1年後にワールドカップ初出場、初優勝を果たす。オリンピック金メダル2個、銀メダル1個、世界選手権金メダル2個、銀メダル3個、アジア選手権金メダル2個、銀メダル1個を獲得する。現在自分自身でFIT SKI TEAMを設立し新たな目標に向け現在に至る。



目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
第35回 朝日町生涯学習推進大会
- P4 特集
農業を生業にすること
町政スポット
・町内「朝日相扶製作所」、「榎平の棚田」をOECD調査団が視察 ほか
- P14 朝日町らしい「きらりとひかる学校・地域」を目指して
- P16 まちレポ
・「雪りんご」準備作業 ほか
- P18 朝日町健康工房ロイフェンがIFFA日本食肉加工コンテスト第2回で4点が金賞、1点が銅賞を受賞 ほか
- P20 NHK「あなたの町の映像アルバム福島・山形編」に朝日町が登場、各種文化・スポーツ大会の入賞結果、町立図書館コーナー、それいけ協力隊とウサビ
- P22 健康あさひるばんざい
朝日町エコミュージアムサテライト散策
- P23 戸籍のまど、となりのりんごさん、ニューススポーツ体験会
- P24 朝日町公式LINEアカウントがもっと便利になりました！

表紙の写真



2月8日、りんご園地で剪定作業に励む菊地美桜さんを撮影しました。菊地さんは就農4年目。ようやく木を見て切らないといけない枝というのが分かるようになってきたと話します。特集内5ページでは菊地さんのインタビュー記事が掲載されています。

町長歳時記 (193)

時代の検証

(人間はたくましい)

～チャレンジの向こうに希望がある

つながりの中に希望が宿る～

2018年度から2027年度までの10年間で計画期間として策定された第6次朝日町総合発展計画も前期5年が終わろうとしています。中間年に当たる今年度は、町内外の有識者の皆さんをはじめ多くの町民の方々からもご参加いただき、前期の反省点も含め計画の見直し案を検討していただきました。

この前期5年の間にも、当初私たちが予想だになかった世界的激変に襲われてきました。4年目を迎え未だ収束を見せぬ新型コロナウイルス感染症。1年前突如勃発したロシアによるウクライナ侵攻。百年に一度と言われてきた大規模自然災害の頻発。これら案件は1つだけでも世の中を大混乱に陥れてしまいます。それが、二つ三つと同時多発的に襲来している今、正に危機的状況が全世界を覆い尽くしていると言えます。

そんな中であっても人間はたくましく生きています。目の前の困難を克服すべく、一つ一つしっかりと忍耐強く努力を積み重ねています。後世の人々がこの時代をどのように検証し、語り伝えていくか、現代に生きる私たちには知る由もありませんが、生きること、生き続けること、そして生き抜くことへの真摯な姿・真面目な生き方が、後世の人々への「寄り添い」となるのではないかと実感しています。

時代を検証し、事柄を洗い出し精査する。そしてそれらを基に、より良き時代の指針として未来への計画を定めることの意義は、混沌とした時代であれば尚更、重要なことであると思います。

チャレンジの向こうに希望がある。つながりの中に希望が宿る。そんな想いを抱きながら、町民みんなが活躍し笑顔あふれるまちを、ともに創ってまいりましょう。

朝日町長 鈴木 浩孝



就農4年目
菊地 美桜 さん

やりたいことが
たくさんあって
全部できるのが
農業だったんです

農業を 生業にするということ

朝日町の基幹産業である農業。少子高齢化・人口減少からくる後継者不足により、これからの担い手の確保が重要な課題となっています。

今月号では、新規就農を決めた方々にその理由や経緯をお聞きし、後半では新規就農までのサポート体制を特集します。

町の農業を取り巻く課題

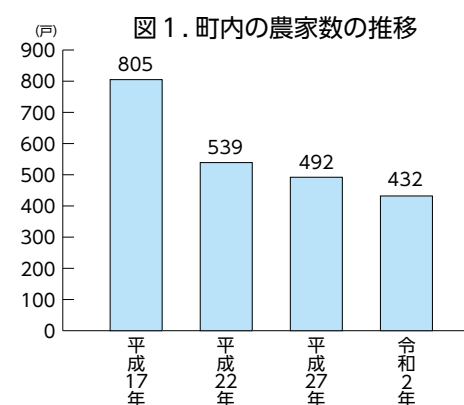
朝日町では、地域の特性を活かして農業振興に取り組み、特にりんごは優秀な品質の生産地として、国内外の市場で高い評価を得てきました。また、地元産のおどうを原料とするワインも、全国コンクールで入賞し、国際会議で提供されるなど、高く評価されています。その他にも西洋なし、さくらんぼ、もも、すもも等の果樹に加え、米や野菜、花きの園芸作物など、農業は町の基幹産業として発展してきました。

しかし、人口減少・少子高齢化により、農業者の後継者不足や繁忙期の人手不足が深刻で、耕作放棄地が増加しています。具体的には平成17年、町の農家数は805戸でしたが、令和2年には432戸と15年間で半数近くにまで減少（図1）。農家経営者の年齢も60歳以上が7割以上を占め（図2）、後継者を確保できていない方が8割以上という状況であり（図3）、これからの町の農業を守っていくためには新たな担い手の確保が重要な課題です。昨年4月、町ではりんごを中心とした「あさひりんごの郷協議会」を立ち上げ、関係団体との連携強化を図っています。

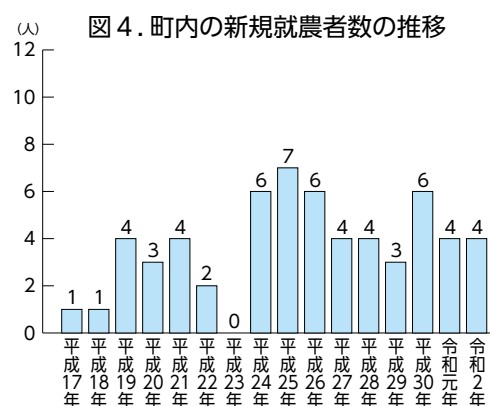
農業に魅力を感じて

年々農業者が少なくなっている一方、朝日町の農業に魅力を感じて、新規就農する方がいます（図4）。新規就農者は、家族が農家で農地を受け継ぐ方や、非農家から新たに農業を始める方、都市部から朝日町に移住して就農する方などさまざま。彼らは農業のどこに魅力を感じているのでしょうか。

今回の特集では、農業を生業にして、充実した毎日を過ごす就農者と、就農を目指して町で研修を受けている方に話を聞きました。また、新規就農までの過程とそれを支援する「あさひりんごの郷協議会」についても紹介します。

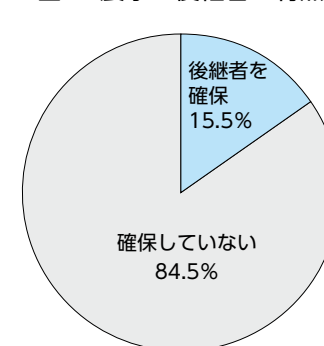


(出典：農林業センサス)

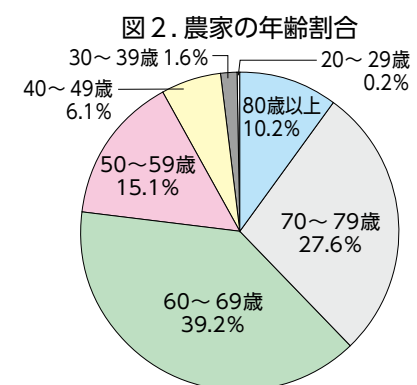


(出典：朝日町農林振興課調べ)

図3. 農家の後継者の有無



(出典：2020年農林業センサス)



(出典：2020年農林業センサス)

祖父の畑を受け継ぐ

農家になる決意

元々祖父がりんご農家で、幼い頃からりんごに触れてきました。中学生の頃、進路を決めるときに自然の中で仕事がしたいという思いもあり「農業もいいなあ」と考えるように。小・中学校と楽器に触れ音楽の楽しさを知りその道も考えましたが、音楽で食べていくのは難しい…。そこで「そっかあ！農家やりつつ趣味として楽器やればいいじゃん！」と思い浮かびました。町のりんごも無くしたくなく、農家になることを決意しました。

中学卒業後は、家から近いところで、農業が学べる左沢高校に進学。その後、山形県立農林大学校果樹経営学科で果樹栽培を学びました。農大での2年間はとても楽しく農家を目指す仲間にも出会うことができ、学んだことや卒論のためにとったデータなどは就農してから役に立っています。

4年目を迎えて思うこと

なかなか思い通りにいかないというのが正直なところですね。祖父が亡くなり、農大を卒業するまでは父と母が頑張ってくれていたのですが、いざ私も剪定を始めてみると仕方とかわからなくて。作業効率が悪いし日光は入らないので、苦労しました。周りの農家さんからいろいろご指導をいただき、就農4年目になり、実践を通して改めて少しずつ分かるようになってきたように思います。

また、早生種から中生種、晩生種とさまざまな品種が植えられていて忙しく、さらに作業効率が悪いので、摘花から始まり作業していく内に、想定よりもどんどん作業が後ろ倒しになっ



「来年度はもっと大きなりんごができるといいなあ」と話す菊地さん

てしまつて、苦労しています。

今後やりたいこと

最近では、町内でも高齢で作れなくなっている樹園地が出てきていて悲しく感じています。現在80aのりんごを栽培していますが、これをなんとか軌道にのせて、もっと面積を広げられたらと思っています。また、大江町のビッグバンドにトロンボーンとして参加しているのですが、いずれは自分の畑で演奏会なんていうのもいいですね！

自分らしさを出して働ける職場というのは農業の一つの魅力だし、自分が輝ける場所です。仕事も趣味も好きなこととして、自分らしく楽しくりんご作りを頑張りたいです。

自分に合った農業という仕事

農業研修生 1 年目
小林 吾朗 さん



自然の中での仕事は
心が癒される
農家としての生活が
これから楽しみ

将来を選択する時
高校卒業してから対人関係の不安や仕事の失敗によるトラブルなどで家に引きこもりがちになり、実家暮らしでアルバイトをするという生活を送っていました。そんな時に話しがあったのが、五十嵐義行さん（中沢）のすももの収穫バイトです。バイトをやり感じたのは、「この仕事は全然苦しくないぞ」ということ。浅い考えですが、「仕事をするなら農業だ」とこの時思いました。でも就農する手だてが分からず資金もありません。困っている時に、五十嵐さんから、「独立就農の意思は無いのか？今は補助金を使って非農家でも就農できるんだ。俺についてこれは大丈夫だから」という後押しがあつて、就農への道が開けました。もちろん不安もありましたが、このまま引きこもっても仕方がない、選択する時が来たんじゃないかと思えました。

今年度は例年より一気にすももの色が付いたらしく収穫がとでも忙しかったのですが、満足した1年を過ごすことができました。体力的な面で苦しいことがあっても全然苦にならず、精神的な面でも自然の中での作業には、心の傷を癒してくれるような効果があるんじゃないかと思っています。

未来を見据えて
現在、国の支援制度（就農準備資金）を使って研修中で、令和6年から独立します。独立後は紹介いただいた土地を借りて、すももの苗木を植える予定なんです。収穫できるようになるまで時間がかかるので、当面は国の支援制度を活用しつつ、五十嵐さんの畑をお借りしてのすもも栽培とナスの露地栽培を考えています。ナスは鈴木創さん（小原）が栽培されており、今からいろいろお聞きしているところなんです。



頑張ってやってくれている。非農家から農家になるということで、独立への覚悟がきちんと出来てきている。弱い部分は誰にでもある。吾朗がきちんと独立できるように私も指導していきたい。

研修生受け入れ農家
五十嵐 義行さん

んです。土地を貸していただける方も鈴木さんも、五十嵐さんの紹介でとても感謝しています。指導は厳しいですけど、自分のために言ってくれているのが分かり辛くありません。2年間の研修期間も来年度で終わってしまうので、2年目は農業についてもっと詳しく聞いていきたいと思っています。

独立については、資金面など不安なことはありますが、自分で育てたものを収穫して、それを販売して利益を出し、生計を立てていくという楽しさもあります。

移住後、一から始める農家生活

農業研修生見習い
磯 智哉 さん



ホームページを見て
勢いで来たのが朝日町
ここで働けて幸せです

縁もゆかりもない朝日町で農業を選択
町に来る前は東京で働いていたのですが、コロナのこともあって離職。次を考えた時に誰も知らない土地で一から始めたいと思ったのが始まりですね。それでどこに行こうかと市町村のホームページを眺めていてピンと来たのが朝日町。私がりんご好きということ、青森県や長野県ではなく山形県でりんごというのが魅力に感じました。ホームページで研修や各種支援制度が紹介されていたのもあって、実際に行って見ようかと思った次第です。

一人暮らしだったこともあり、令和4年1月に事前の連絡もいれずに勢いで朝日町役場に相談に行きました。さすがにすぐ農業をできるとは思っていなかったのですが、ベテラン農家さんの下で働きたい旨の相談をし、受け入れ先を探してもらいました。

甘く見ていた仕事、農業の醍醐味を知って
研修先が親方（長岡秀昭さん／前田沢）のところに決まり、働き始めたのは5月中旬の摘花作業からでした。前職がクリーニング店で屋内での仕事だったこともあり、暑い時や寒い時、雨が降った時など屋外での作業は大変でした。甘く見ていた部分はありましたね。それでも、手伝わせたもらったものが収穫できた時は嬉しかったです。これが農業の醍醐味なんだなと。その場でりんごを食べてみたらおいしくて、これを皆さんに食べてもらいたい、おいしいことを知ってもらいたいという気持ちになりました。

親方にも良くしていただいて、研修後のさらに独立後まで見据えて指導してもらっています。受け入れてもらえたのが親方で、本当にラッキーでした。ここで働かせてもらえて幸せというのが正直な気持ちです。



磯 智哉 さんを紹介した新規就農者向けの動画での一場面。動画は次の頁の二次元コードからご覧ください。

将来への不安と期待
今年度は途中から研修を始めたので申請が間に合わず国の支援制度が受けられなくて。支援を活用できる今後2年間でどこまで技術を蓄えられるか、独立後どうやっていくか。不安を挙げれば切りがないですけど、一人前になれるよう努力していきたくないです。

私は外から入って来た人間なのでなるべく地域のコミュニティに入っていきたいと思っています。朝日町で農業をしていくと決め、ここに骨を埋める気持ちでいますので、これからどうぞよろしくお願いします。

就 農

いよいよ就農です。分からないことや不安なことがあれば、1人で抱え込まないで先輩農家や町農林振興課に相談しましょう。



農業研修

就農後のイメージが出来たら町内の先輩農家の下で技術や経営のノウハウを長期の農業研修を通じて学びます。独立を見据え青年等就農計画を作成し、「認定新規就農者」を取得しましょう。



農業短期体験

就農にあたって実際に農業体験や研修を受けたい方向けに、町内の受入農家を紹介しています。体験期間中は朝日町農業研修生等宿泊施設（右上写真）を無料で利用できます。

農業体験

短期の農業体験を通して、「農業とはどういうものか」ということを確認し、自分が目指す将来の農業経営のかたちを絞り込んでいきましょう。



農業人フェア

農業に興味がある、これから農業で一步を踏み出そうという方、農業を仕事にしようと考えている方などを対象に相談や就農の情報を得られるイベント。



新規就農者と研修生へのインタビュー動画

町で就農した方、就農を目指している方の生の声を聞くことができます。現在 27 人が紹介されています。

▶動画へのリンク



情報収集

農業を始めるにあたり、情報を収集しイメージを具体化。何から始めればいいのか分からない場合は、「町農林振興課」や「やまがた農業支援センター」などの就農相談窓口に連絡、相談してみましょう。

第三者移譲による離農給付金（町）

離農を考えている方が、農地等を第三者となる新規就農者等に移譲した場合に助成
【補助内容】 50,000 円 / 10a

就農準備資金（国）

研修期間中の 50 歳未満の研修生に対し資金を交付
【支援内容】 12.5 万円 / 月（150 万円 / 年）を最長で 2 年間助成

農業研修生受入支援事業（町）

独立を目指す農業研修生を受け入れて指導する農家への賃金等の助成
【補助内容】 研修生へ支払う賃金の 1/4（限度額 3 万円 / 月）

協議会の活動概要

活動計画策定部会

- ◆地域農業の活性化の取組
 - ・農業技術普及研修会開催
 - ・農作物の付加価値を高めるための研修
 - ・モデル平場圃場の活用
- ◆企業の連携、交流事業
 - ・企業情報の収集
 - ・援農受入試行
 - ・連携、交流事業の協議
- ◆農業経営における IT・デジタル化の取組
 - ・気象データの活用と病害虫の防除
 - ・農業スマート機器のデモ実施

移住就農事業部会

- ◆移住・就農人材開拓事業の取組
 - ・説明会、相談会の実施
 - ・全国公募
 - ・事前体験、研修
 - ・移住、就農受入

樹園地継承事業部会

- ◆樹園地の継承事業
 - ・相談窓口の設置
 - ・中間管理業務の検討
 - ・権利の移転調整



◀フェイスブックへのリンク

トピックス！

あさひりんごの郷協議会

りんごを中心とした町農業の維持発展・地域農業の振興を図る
昨年 4 月に設立された「あさひりんごの郷協議会」。朝日町に限らず日本全国の農地で少子高齢化・生産年齢人口減少という課題に直面していますが、朝日町の代名詞でもある「りんご」に目を向けると、2010 年から 2020 年の 10 年間で「りんご生産者が 23.3% 減」（352 経営体 ↓ 270 経営体）と早いスピードで減少しています。

このまま減少し続けると、先人が努力を重ね築き上げてきた朝日町のりんご産地とブランドの存続が危ぶまれ、ひいては町の基幹産業である農業と関わりの深い他産業の衰退にも繋がります。

こういった課題を解決するため、関係団体と一緒に「あさひりんごの郷協議会」を設立しました。今現在は、国の交付金を活用しながら今後 3 年間で課題解決に向けてどのような事業を行っていくのか、という方向性を決める計画の策定を行っています。

今までと異なる点は、新規就農者の「全国公募と選考」を行い、誰でも良いのではなくやる気のある就農希望者を重点的に支援すること。

県内初の女性農業委員3割登用 12人の新農業委員が決定



■会長
鈴木好一（ハツ沼）
■会長職務代理
高橋道子（水本）

町農業委員会委員の任期満了により、新たに12人の委員が決まりました。これは町議会9月定例会での同意を得て、鈴木町長が任命したものです。改選により町農業委員会における女性農業委員の割合は3割となり、国が推進する「第5次男女共同参画基本計画」の成果目標を達成した県内初の自治体となりました。

12月21日に開催した臨時総会では、委員の互選により、会長に鈴木好一さん（ハツ沼）、会長職務代理者に高橋道子さん（水本）を選出。そのほか委員の所属部会等も決定し、今後3年間、町の農業振興の一翼を担う体制が整いました。

また、農業委員とともに地域で活動する「農地利用最適化推進委員」9人が委嘱されました。同委員は、地域の農業者や団体からの推薦・公募により選出。今後は農地の利用に関する貸し手と借り手の調整、農地法の規定による許可申請等にかかる現地調査などを行う予定です。

農業委員会は、農業振興対策や農地の有効活用、利用促進を図る上で重要な役割を担っており、農地の利用に関する様々な許認可権を持っています。所有権の移転や転用など、農地に関する相談はお近くの農業委員、または町農業委員会事務局へお問合せください。

■農地部
海野武雄（助ノ巻）★
長岡泰美（宇津野）☆
佐藤亮二（新宿）
笹原昌俊（長沼）
菅井源三郎（小原）

■農政部
佐竹敏子（太郎第二）★
鈴木敏広（松程）☆
志藤一枝（川通）
渡辺良明（天竺）
小林幸子（天沼）

◆任期：令和4年12月21日～
令和7年12月20日
※★印：部長 ☆：副部長

■農地利用最適化推進委員
柴田栄二郎（元町）
鈴木義彦（雪谷）
渡邊市五郎（下吉沢）
齊藤利彦（夏草）
佐竹和広（ハツ沼）
阿部孝晴（松程）
小林卓（大沼）
遠藤幹子（栗木沢）
鈴木龍也（真中）

◆任期：令和4年12月21日～
令和7年12月20日

米寿と上寿を祝って賀詞を贈呈



▲今年米寿を迎える布施政身さん（助ノ巻）

町内在住で今年米寿を迎える方73人と上寿者（数え年100歳以上）の方24人に対し、町は1月6日、長寿のお祝いとして賀詞と祝品を贈りました。

この日は、鈴木町長らが各家庭を訪問し賀詞を贈呈。コロナ禍ということで、短時間の訪問となりましたが、皆さんから元気で温かく迎えていただきました。後日、賀詞伝達を受けた方のお一人から、「寒い雪の中、お祝いをいただきありがとうございます。私もできる限り健康に気を付けて過ごして参りますので、今後ともよろしく願います」という心温まるおはがきをいただきました。

町では、さまざまなサービスやサポートを提供することで町民の皆さんが住み慣れた場所ですぐでも健康で過ごせるよう支援していきます。

町内「朝日相扶製作所」、「榎平の棚田」をOECD調査団が視察



多くの取材陣の中、調査団へ説明をする志藤さん

日本とアメリカ、カナダ、スイス、スコットランドの5か国が参加するOECD（経済協力開発機構）の調査団が1月11日に来町しました。地域資源の活用や持続的な発展策などを通し、都市部と農村部の格差解消等に向けた取り組みのモデルとして、全国の自治体から当町が選定され現地調査が行われたものです。

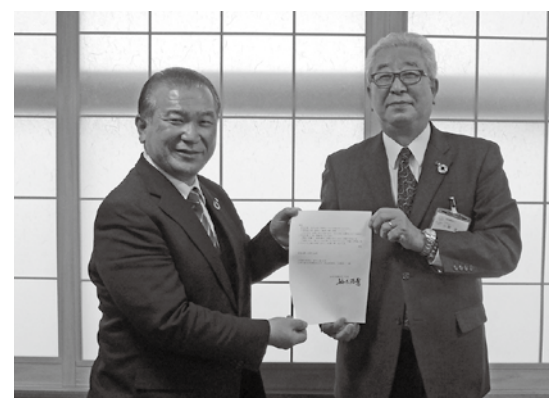
町長を表敬訪問した調査団一行は、「無袋ふじ」や「朝日町ワイン」「空気神社」など他に類のない町のさまざまな取り組みについて説明を受けた後、株式会社朝日相扶製作所を訪問。同社の阿部佳孝社長

より、会社の3つの強みである①100%OEM（相手先ブランド）生産、②多品種少量生産、③ジャストインタイム生産（必要なものを必要な数で必要な場所へ）についての説明がありました。

続いて訪れた榎平の棚田では榎平棚田保全活動推進委員会の志藤寛一代表より、一時は棚田の維持管理が困難な状況に陥ったものの、保全活動の内容に応じて農作物がもらえる「棚田チケット」の仕組みをつくり、町内外の協力を得ながら景観を維持してきたこれまでの活動について説明がありました。調査団は、「地域に合った取り組みやイノベーションによって保全されている画期的な事例である。今後とも後世につなげてほしい」と高く評価していました。

今回の調査結果は、日本の代表事例として国際機関から世界中に紹介される予定です。

寄付採納報告



小関眞一代表取締役（右）

1月11日、山形日産自動車株式会社（小関眞一代表取締役／山形市）へ企業版ふるさと納税寄附に対する感謝状の贈呈式を行いました。

「朝日町さんにはニッサンの森活動を通して、社員だけでなくその家族共々お世話になっている。今後も関係性を継続し、共に発展していきたい」と話す小関眞一代表取締役。いただいた寄附金は、空気神社ライトアップ事業に活用されます。



昨秋、寒河江市在住の今井幸彦氏より前田沢の土地と邸宅について、町に対し寄付の申し出があり、10月31日付で受納しました。

約3,300㎡（1,000坪）の敷地には築130年の古民家と土蔵、美しい庭園などがあり、7年前から「星の会（成原千枝代表）」がマルシェ（市）や展示会等に活用してきました。今後はインバウンド復活も見据えながら、にぎわい創出、交流の促進に向け有効活用します。

3年ぶりのトップセールス りんご海外輸出事業

平成16年度に始まった町産りんご海外輸出事業が、このたび19年目を迎えました。今年度も主要輸出国であるマレーシアや台湾のほか、タイ、フィリピン、香港へ32・2トンを出荷。販売額は1,268万円を記録しています。

12月から1月にかけて鈴木町長、川口副町長をはじめ、町職員や生産者が現地に向かい、プロモーションを実施。現地で店頭に立った農林振興課の菅井元基主事は、「コロナの心配から試食をためらう方もいましたが、実際に食べてもらうことで、評価してくれる方が多くなったと感じています。期間中、町親善プログラムのアリスさんが来てブログで紹介したところ、翌日にはそのブログを見て買いに来た、という方がいてSNSの力を実感しました」と振り返ります。

また、台湾からのインバウンド誘客を目的として、台湾の台北市で旅行会社



写真はタイの売場の様子。品種や等級によって1個約200～400円で販売



鈴木町長によるインバウンド誘客に向けたトップセールスの様子



台湾のデパートで、りんごをPRする鈴木町長(中央)と井澤壽一さん(右端)

やランドオペレーターをはじめ、台湾からの誘客に関わる方を対象に鈴木町長のトップセールスが行われました。町長は「朝日町のりんごは事業当初から台湾へ輸出しており、皆さまから好評をいただいている。今後は台湾の皆さまにも朝日町に来て楽しんでいただきたい」と町の取り組みや魅力をPR。朝日町を訪れたことのある旅行業関係者は、「朝日町は自然豊かで、おいしいりんごや豊富な積雪など台湾人にとって魅力的なものが多く、積極的に紹介していきたい」と語っていました。

インバウンド誘致も含め、今後も引き続き、生産者・JA・町が一丸となって、町産果物の魅力を国内外にPRしていきます。

インバウンド推進に向け、台湾へ朝日町をPR！



インバウンド推進員の林隊員（写真左から2番目）も同行し、撮影をサポート

12月17日から19日にかけて台湾のテレビ番組「食尚玩家具肉郷民」による撮影が行われました。その模様が1月3日に放送され、台湾の週間視聴率で1位を獲得しました。

この番組は、15年以上続いている人気番組で、タレントが台湾各地の旅行や食を中心にしてレポートを行うもの。今回はコロナ禍以降初の海外ロケ特番として日本を訪れ、47分の放送時間のうち約30分に渡り、朝日町が紹介されました。撮影は「Asahi自然観」「道の駅あさひまち」「朝日町ワイン城」他町内飲食店などで行われ、町の食を中心とした構成。撮影中に雪による倒木で道路が通行止めになるという台湾ではあり得ないハプニングが起こり、それを番組内で取り上げたことも高視聴率につながったようです。



動画のサムネイル画面。2月1日現在で約11万4千回再生



(番組本編)

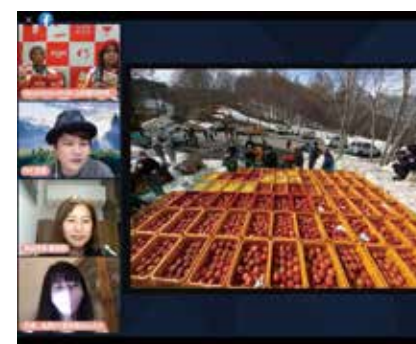


(ネット限定版)

日本語訳はついていませんがこの番組はユーチューブでも見ることが出来ますので、ぜひご覧ください。

朝日町を紹介した台湾の人気テレビ番組週間視聴率で1位を獲得

台湾の町親善ブロッガーとのライブ配信交流会を開催



ライブ配信で広く町の取り組みを紹介

12月29日、台湾に向けた「町と親善ブロッガー3人との交流会」がSNS上でライブ配信されました。今回は、1月に台湾で行われるりんごキャンペーンを広く周知し、朝日町を間近に感じてもらうことを目的として開催。キャンペーンでりんご生産者として台湾を訪れる井澤壽一さん(夏草)がゲスト出演し、インバウンド推進員の林隊員が説明と通訳を行いました。

参加者からはおいしいりんごの選び方などの質問が寄せられ、キャンペーンに向け期待が高まっていました。キャンペーンの様子は左頁で紹介しています。



自然観でウサビと写真を撮るナターシャさん

1月9日から11日にかけて、台湾の町親善ブロッガーであるナターシャさんが来町し、SNSで町をPRしました。

ナターシャさんはスキーやスノーボードを得意とし、ワインにも詳しくソムリエの資格を持っている方で今回が初めての来町。Asahi自然観や朝日町ワイン城をはじめとする町の観光スポットを取材しました。町を満喫したナターシャさんは「パウダースノーのスキー場やりんご、美味しいワインがある朝日町は、台湾人にとっても魅力的。ぜひ多くの人に紹介したい」と語っていました。

台湾の町親善ブロッガー、ナターシャさんが来町

山形県市町村広報コンクール 本紙7月号が広報紙の部(町村部)で特選



受賞号の特集ページと表紙。全体を通して、行政的な堅苦しさがない点も評価された

「山形県市町村広報コンクール」の今年度の審査結果が2月1日に発表され、「広報紙の部(町村部)」で本紙2022年7月号が特選を受賞しました。本紙は今後、(公財)日本広報協会が主催する全国広報コンクールへ推薦されます。

受賞紙では、「末吉良ボーイズ」について特集。「若者の希望、居場所、誇りといったキーワードをもとに紹介しており、若者が活動している姿から元気が伝わる」との評価を受けました。

そのほか一枚写真の部で3月号(表紙)が入選4席、組み写真の部で6月号(空神社ライトアップ)が入選4席に選ばれています。

広報紙に対する町民の皆さまの日頃のご理解とご協力に対し、あらためて感謝申し上げます。

義務教育学校のメリットとデメリット

- メリット**
- ①同じ校舎に小学生と中学生がいるため、小学校教育から中学校教育への円滑な移行ができるようになり、卒・入学等の大きな環境の変化による問題を緩和・解消する効果が期待されます。
 - ②9年間の育ちの中で異学年交流等を行うことにより、下級生への思いやりの心、上級生への憧れの気持ちなどを育み、規範意識や社会性の育成を図ることができます。
 - ③小・中学校教員の相互交流により、教科担任制などの導入も進み、9年間を通して児童・生徒に応じたきめ細やかな指導が可能になります。

- デメリット**
- ①小学校6年生が最高学年としてリーダーシップや自主性を養う機会が減る可能性があります。
 - ②9年間一つの校舎で過ごすため、人間関係の固定化が懸念されます。

義務教育学校になると変わることに

これまで



入学 1年 2年 3年 4年 5年 6年 卒業



入学 1年 2年 3年 卒業

義務教育学校
ができると



入学 1年 2年 3年 4年 5年 6年 7年 8年 9年 卒業

「朝日はひとつ」子育てはみんなの手で

「ふるさと朝日町を想い 自信と誇りに満ち 未来を拓くたくましい人づくり」第2次朝日町教育振興計画に掲げられた基本目標です。この目標を達成するための教育方針第1番目に「家庭・地域・学校が協働し、きらりとひかる学校・地域づくりを推進する」があります。きらりとひかる⇒朝日町らしい⇒朝日町だからできる学校とは、家庭・地域・学校が協働する学校です。

これまで「ふるさと学習」と「英語学習」を2本柱として、保育園から小学校そして中学校まで、子どもの成長と学びが滑らかに接続するように保小中連携・一貫教育の実践を積み上げてきました。これも「朝日町らしい」のひとつです。また、小中学校にコミュニティー・スクールを導入して5年が過ぎました。学校と家庭・地域が課題を共有し、知恵を出し合い、たくさんの地域の方から協力していただいて「きらりとひかる学校」を目指して、より一層力を入れています。

これまで取り組んできた保小中連携・一貫教育の先にある学校が「施設一体型義務教育学校」です。コミュニティー・スクールで培った世代間交流や、地域の人みんなで子どもの教育に関わる体制を朝日町全体に広げていく必要があります。「朝日町らしいきらりとひかる学校・地域」の実現を目指して、町の宝である子どもたちをみんなの手で育てる義務教育学校となることを願っております。

朝日町教育委員会 教育長 堀 俊一

Q. 学校はいつ、どこに作るの？
A. 令和10年の開校を目指し、朝日中学校の土地に建設予定です。

たこれらのことを新しい学校に引き継いで、ふるさと朝日町を想い社会に貢献できる人材の育成を目指します。

Q. 小学生と中学生が一緒にいる、給食・制服・通学・行事・部活動などはどうなるの？
A. 町民の皆さんの意見をいただきながら、各課題について今後検討する部会を設置して決めていきます。

Q. 「義務教育学校」って何？
A. 小学校と中学校の義務教育を一貫して行う学校の仕組みです。

義務教育学校とは、平成28年4月から設置可能となった新たな学校の種類です。義務教育9年間を通して、同じ教育方針と目標のもと一貫した教育が実施されます。

Q. どうして「義務教育学校」をつくるの？
A. これまでの保小中連携をさらに発展させ、朝日町の特徴を生かした魅力的な学校教育にしたいからです。

今後の学校のあり方を議論するために「あさひまち未来の学校検討委員会」が設置されました。議論の資料にするために保育園と小中学校の全ての保護者、町民の方々へのアンケート

Q. どんな学校になるの？
A. ふるさと朝日町を想い、社会に貢献できる子どもたちを育てる学校を目指します。

町ではこれまでも「保小中連携・一貫教育」を進めてきました。特に「ふるさと学習・郷土学習」と「英語学習・国際理解教育」を2本柱として力を入れています。さらにコミュニティー・スクールも5年目を経過し、多くの方々から学校教育活動に関わっていただいています。これまで取り組んできた

トを実施し、答申書（詳細は左記二次元コード）がまとめられました。それを受け、児童・生徒数の推移等を十分考慮し、これまで取り組んできた保小中連携をさらに発展させるための学校として、小学校と中学校が1つになった義務教育学校を創設することになりました。

町HP 答申書

朝日町らしい「きらりとひかる学校・地域」を目指して

朝日町立義務教育学校（仮称）の創設に向けて

令和10年開校予定の方針が示された朝日町立義務教育学校（仮称）。義務教育学校ができることによって、これまでどう変わっていくのか、どのような学校を目指すのかを紹介いたします。



▶豊嶋宮司による陵王の舞

1/25

伝統文化を地域の方に学ぶ 宮宿小学校「雅楽・舞楽教室」

1月25日、宮宿小5、6年生の音楽の時間に、豊龍神社の豊嶋宏行宮司ら祭祀楽研修会の方々を講師に迎えて雅楽・舞楽教室が行われました。箏や笙などの楽器が織りなす日本古来の伝統音楽に加え、巫女の舞や陵王の舞に目を輝かせる児童たち。演奏後には、楽器を持たせてもらったり、楽器や舞についての歴史的な背景を教えていただいたりなど、普段の生活では触れることのない雅楽・舞楽について学んでいました。この授業は来年度以降も継続する予定です。



2/3

鬼は外! 福は内! 鬼に負けない元気な声 あさひ保育園 節分の豆まき

2月3日、あさひ保育園で節分の豆まきが行われました。あさひ保育園では、毎年節分の際に、園児たちそれぞれが思う鬼のお面を自分で作って、それをかぶって豆まきを行っています。2歳児クラスでは鬼に見立てたへ豆を投げる練習をしていたところに2匹の赤鬼が突如登場。園児たちは怖がって後ずさりしながらも鬼めがけて豆を投げ見事撃退していました。その後、鬼は各クラスを回り、外から入ってこようとすると、「鬼は外! 福は内!」の掛け声と共に園児たちに豆をぶつけられ追い払われていました。



▶講師の成功談に多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました

2/3

飛び入りでの当日参加もあり、2回目も大盛況 第2回まちなかフリートーク

2月3日、みんなの居場所すぽっとで「まちなかフリートーク」が開催され、町民や町職員ら約30人が参加しました。2回目となる今回は、「気になる分野を学ぼう! ~ AI から地域づくりまで ~」というテーマで、4人の講師をお呼びし、グループに分かれ活発な意見交換が行われました。「移住女性のコミュニティづくり」のグループではメンバーがLINEでグループを作り、早速2月に集まることが決まるなど、継続の動きが出てきています。次回は3月下旬に開催予定です。今回参加できなかった方もぜひ参加ください。



◀微妙な力加減が要求される「狙って狙ってチューブそり」

2/5

楽しい雪遊びでゲレンデに笑顔の花咲く Asahi 自然観スキー場まつり

2月5日、Asahi 自然観スノーパークで「スキー場まつり」が開催され、多くの親子連れ等で賑わいました。大勢の中からジャンケンで勝ち残って豪華賞品を狙う「桃色ウサヒとジャンケン大会」のほか、人が乗ったチューブそりを押してカーリングのように狙った範囲に止める「狙って狙ってチューブそり」や雪上を爽快に走り回る「スノーモービル乗車体験」など小さなお子さんも楽しめる雪あそびが盛りだくさん。来場者の笑顔があふれる楽しい1日となりました。

ホームページに写真



◀除雪機で大量の雪に覆われる雪りんご

12/26

雪中で熟成させ、春を待つ 「雪りんご」準備作業

秋に収穫した町特産のりんごを、雪中で保存する「雪りんご」の準備作業が12月26日にAsahi 自然観駐車場で行われました。春先でもパリパリのりんごを提供しようと、平成21年から取り組んでいるもので、今年は雪りんご研究会（志藤修治会長／栗木沢）の会員ら約20人がコンテナ約600箱分のりんごを用意。雪をかき分けてスペースを確保し、コンテナを重ねて雪で覆いました。雪りんごは4月上旬に掘り出し、道の駅あさひまち「りんごの森」等で販売を予定しています。



▶農業ほど面白い仕事はないと力説する菅井さん



1/11

朝日中学校 1 学年「総合的な学習の時間」 地域の方から農業の魅力学ぶ

1月11日、朝日中学校1年生の総合的な学習の時間に町内の農家である菊地美桜さん（夏草）と菅井誠吾さん（沼向）の職業講話が行われました。この授業は「朝日町を徹底的に知る」をテーマに地域の方から町に関する話を聞くもので、今回を含めてこれまで8人の方からお話を聞いています。菊地さんからは農家になった理由とその魅力について、菅井さんからはアーモンドを作ったきっかけや取り組みについて話がありました。講話を受けた生徒たちは農業の魅力を通してまた一つ町についての理解を深めていました。



1/13

味が良いと毎年大好評の手作り講座 みんなでみそづくり講座

町農業委員会の女性農業委員が企画・指導する「みそづくり講座」が1月13日と17日の両日に西部公民館で行われ、7人が参加しました。女性農業委員の認知度・地位の向上等を目的に実施し、今年で6年目。1日目はふかした米にこうじ菌を混ぜて米こうじをつくり、2日目には米こうじと大豆、塩をミンチにしてみそを仕込みました。参加した方は「まさしく手前味噌だけど、家族にもおいしいと言ってもらえるので、毎年このみそを作りに来ちゃいます」と笑顔で話していました。



▶制作前の講座では、知られざるハチの生態に驚きの声が上がっていました

1/19

町立公民館文化講座「くらしに彩りを。」冬講座 蜜ろうハンドクリームづくり

1月19日、秋葉山交遊館で「蜜ろうハンドクリームづくり」が行われ、10人が参加しました。講師は蜜ろうの専門家であるハチ蜜の森キャンダル代表の安藤竜二さん（大谷第一）。ハンドクリーム作りを通じて、養蜂と森のつながりや自然の大切さを学ぶ本講座。蜜ろうとオリーブオイルを湯せんしながら混ぜ合わせ、冷まして固まるとハンドクリームが完成。参加した方は「食べられる材料でできているから料理の前にも塗ることができるので便利。毎年楽しみにしています」と話していました。

人とハチとの共生を提案する著者念願の1冊 安藤竜二さんが「知って楽しむ ハチ暮らし入門」を出版



著書を手に笑顔の安藤竜二さん

1月11日、蜜ろうキャンドル工房「ハチ蜜の森キャンドル」を営む安藤竜二さん（大谷第二）が「知って楽しむ ハチ暮らし入門」（農山漁村文化協会）を出版しました。

この本は、ハチをこよなく愛する安藤さんがテレビやYouTubeで過激なハチの駆除がピックアップされていることに心を痛め、「ミツバチ以外は全て悪という最近の風潮をどうにかしたい」という思いで約1年掛けて執筆した念願の1冊。ハチの生態を知ることができ、必要以上に怖がることなく、ハチと付き合う方法が学べる内容となっています。

「人とハチとの距離を縮めることができたなら、もっともっと人は自然がもたらす恵みや癒しを存分に享受し、自然や生き物たちと共生することができるよう。本書がそんな一片の力になれることを祈っています」と話していました。

鶴岡市の小学生 上野龍明さんがウサヒを題材に自由研究 創遊館ギャラリー企画展『ぼくのウサヒ研究展』



自由研究の表紙に使われた上野さんとウサヒのツーショット

1月5日から2月5日までの間、創遊館ギャラリーで、鶴岡市の上野龍明さん（朝陽三小5年）の自由研究作品「桃色のウサヒ」*とすごした夏休み*の展示が行われました。

上野さんは昨年4月、大江町で行われたイベントにて、さまざまなキャラクターがお祝いに駆けつける中で、一際異彩を放つウサヒの振る舞いに興味を持ち自由研究の題材に選びました。令和4年の春から夏にかけて、桃色ウサヒの活動について密着取材し、学んだことや実践したことをA3用紙61ページにまとめています。



ウサヒ研究展の展示の様子。初日は上野さんらが常駐し、多くの新聞やテレビの取材陣が訪れました

この研究は、鶴岡市小中学校児童生徒社会科研究物展における最高賞の「大瀬欽哉賞」を受賞。全ページ手書きでまとめられており、手作りならではの温かさと熱量が感じられます。

展示を終えて上野さんは「町の皆さん、取材させていただきました。メディアにたくさん取り上げても良かったことで、ぼくも町おこしに参加することができました。研究の中でお世話になった朝日町の皆さんへ恩返しができる嬉しかったです。これからもウサヒや朝日町の良いところを見つけていきたいです」と話していました。この展示は3月1日から上野さんの地元である庄内地方のイオンモール三川でも行われます。ぜひご覧ください。

朝日町健康工房ロイフェンが IFFA 日本食肉加工コンテスト 第2回で4点が金賞、1点が銅賞を受賞



左上から金賞を受賞したベーコン、ボンレスハム、プラートブルスト、チョリソーと銅賞を受賞した荒挽ウインナー

DFV（ドイツ食肉連盟）が主催する「IFFA 日本食肉加工コンテスト第2回」で朝日町健康工房ロイフェン（佐藤俊実社長）がハム・ソーセージなど5点を出品し4点が金賞、1点が銅賞を受賞しました。

同コンテストは昨年8月末に千葉県市原市で開催され、全国各地から約500点以上の出品がありました。本場ドイツの食肉マイスターが味、外見、食味、におい、スパイスなどを厳正に審査。評価の高いものから金銀、銅賞に選ばれ、今回受賞した金賞は減点方式で満点のものだけが与えられる賞となっています。

同社は前回コンテストでもダチョウ肉を使用した2つの商品

で金賞を受賞しましたが、今回は豚肉を使用した商品のみを出品。親会社である大東建設株式会社の佐藤欣治代表取締役は「今回受賞した品は地元の小学校の給食に出している物と同じものです。普段町の子どもたちが食べているものが評価されたということ嬉しく思っています。今回のコンテストはさらにステップアップしてよりグレードの高いものを出品していきたいです」と話しました。

今回受賞した商品は、道の駅あさひまち「りんごの森」や朝日町健康工房ロイフェンの店頭で購入できます。



獲得した賞状やメダルを掲げる佐藤欣治代表取締役（写真左）と熊谷良作総合管理課長（写真右）

第1回全国りんご選手権 白田農園の「こうとく」が最高金賞を受賞



りんご畑の前で賞状とこうとくを持つ白田憲彦さん

（二社）日本野菜ソムリエ協会（福井栄治理事長／東京都中央区）が主催する第1回全国りんご選手権において、白田農園（白田憲彦代表）の「こうとく」が最高金賞を受賞しました。

この選手権は昨年11月に行われ、全国各地からエントリーしたりんごを、評価員である野菜ソムリエたちが商品名や産地、生産者情報などをすべて伏せて皮つきで食味し、その美味しさを味・香り・食感などで審査し、評価員全員の合計点数によって各賞を決定。結果が掲載されたホームページでは「濃厚なハチミツのような甘さ」「シャキシャキの食感、甘み、酸味のバランス

スが良い」と評価されていました。白田さんは他にも「ふじ」も出品しこちらは銅賞に選ばれています。

結果を受けて白田さんは「資格を持った味のプロからりんごの味を見てほしくて応募しました。全員のコメントを見るとやはり感じ方は人それぞれ。甘いという人もいれば酸味があるという人もいます。賞が取れたのはたまたまだと思うが評価されたことは嬉しい」と話します。

受賞を知った方からのりんごの注文があったり、毎年剪定の研修に行っている青森で話題となったりとさまざまな反響があったとのこと。

白田さんは「甘みと酸味のバランスが良いりんごが自分の理想とすること。毎年同じことをしていたら進歩がないので、2連覇できるように理想のりんごを追い求めて精進していきたいです。上位を朝日町で独占できれば良いですね」と笑顔を見せていました。

NHK「あなたの町の映像アルバム福島・山形編」に朝日町が登場



宿のやかたで行われた上映会の様子

東北地方を中心に放送されているNHK仙台放送局制作番組『東北ココから』の「あなたの町の映像アルバム福島・山形編」に朝日町が登場します。

この番組はNHKが過去に朝日町を取材・撮影した映像の上映会を開催し、地元の人だから分かる当時の感動や心境、思い出を語り合うものです。撮影は1月22日に新宅今井家「宿のやかた」で行われ、6人の方が映像を鑑賞し語り合いました。「今映っている人は●さんだ」この時のすぐ後に災害があったに話が盛り上がりつつありました。

この番組は3月24日（金）の午後7時30分に放送を予定しています。ぜひご覧ください。

朝日町での地域おこし協力隊を始めたのが2010年の10月。ちょうど卯年になる年度でしたので、めでたく今年で干支一回りとなりました。



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

朝日町での地域おこし協力隊を始めたのが2010年の10月。ちょうど卯年になる年度でしたので、めでたく今年で干支一回りとなりました。元旦は日本テレビさんが企画してくれたウサギゆるキャラでの相撲大会に出演し、なんと優勝することができました。朝日町の名前と、手伝ってくれた西五百川小学校の子どもたちの笑顔を全国放送で届けられた事が嬉しく、年始めとして縁起のいいスタートが切れました。

1月は卯年にあわせたオファーもたくさんで、豊龍神



寒中見舞いを郵便局に持ち込むウサビ

「全国からの応援メッセージを胸に」

情報交流総合アドバイザー 佐藤恒平（福島県出身）

皆さんの御守り発売や、創遊館でのウサビ研究展（詳細は19頁記事をご覧ください）、新聞やテレビなどの各種メディアでの出演と大忙しでした。

そんな中、何よりも元気をもらったのがウサビへの年賀状でした。北は北海道、南は台湾まで、自作のイラストや相撲放送への激励などをしたためたハガキが全国から600通以上届きました。山形の小さな町の取り組みに注目してくれている方がこれだけいることに最高のやりがいを感じつつ、月末には全員に寒中見舞いの返信を送りました（もちろん、朝日町の郵便局限定のウサビ風景印で）。たくさんの年賀状から元気をもらい2023年もウサビ共々頑張っていこうと思います。

現在、朝日町で働いてくれる新しい地域おこし協力隊の募集も行われておりますので、こちらまでぜひお知らせいにご紹介いただけたら幸いです。

各種文化・スポーツ大会の入賞結果

■第41回全国中学生人権作文コンテスト山形県大会 寒河江地区大会 【寒河江協議会奨励賞】 朝日中3年 菊地舞（西町） ■第26回朝日町民柔道大会 （12月18日／町民武道館） 小学生の部 ◆浅岡優作（緑町）、②多田聡（大町） ◆中学生以上 女子の部 ①海野真穂（緑町）②菊地舞（西町）③海野結菜（緑町）、熊谷董（緑町）敢闘賞：布施穂（松程） ◆中学生以上 男子の部 ①渡邊優（大谷第二）②西澤峻（西原）③石塚那緒也（四ノ沢）	■町小学校スキー記録会 （2月1日／Asahi自然観スノーパーク） ◆5年男子の部 ①佐久間陸斗（大）②阿部廉士（西）③長岡遥（大）④白川心琉（西）⑤海野龍成（西）⑥モラ玲音（宮） ◆5年女子の部 ①長岡希奈（西）②樋口心葵（西）③松田依知佳（宮）④佐竹愛菜（西）⑤本田淑乃（宮）⑥鈴木柚葉（宮） ◆6年男子の部 ①小松悠月（宮）②浅岡蓮（宮）③杉政来虎（宮）④富樫一帆（大）⑤佐藤風（宮）⑥安藤琉達（宮） ◆6年女子の部 ①鈴木音々花（宮）②成原莉瑚（宮）③渡邊未来（宮）④阿部真那佳（大）⑤安藤実音（大）⑥佐久間陽愛（大）
--	--

特別
拡大版

町立図書館のご案内



2022年 町立図書館 貸出しランキング【一般書 TOP 5】

タイトル／著者	出版社
1 無明／今野敏	幻冬舎
2 探花／今野敏	新潮社
3 チョウセンアサガオの咲く夏／柚月裕子	KADOKAWA
4 パン＆サンドイッチ／沼津りえ	永岡書店
〃 特許やぶりの女王／南原詠	宝島社

【児童書 TOP 5】

タイトル／著者	出版社
1 ノラネコぐんだんラーメンやさん／工藤ノリコ	白泉社
2 パンどろぼう vs にせパンどろぼう／柴田ケイコ	KADOKAWA
3 おむつのなか、みせてみせて！／ヒドファンヘネヒテン	パイインターナショナル
4 いないいないにゃあ／沖昌之	講談社
〃 やまがみさまのきょだいべんとう／大串ゆうじ	偕成社

ピックアップ！おすすめの既刊 など



「いないいないにゃあ」
沖昌之 作／写真
講談社

いないいないにゃあ。ねこさんねこさん、かわいいおかわりさせていないいないにゃあ。ソートネコたちのくすくすと笑える瞬間を捉えた猫写真家・沖昌之による写真絵本。



特集
2022年 町立図書館
「貸出しランキングTOP 30」

【今月のブックテーマコーナー】
2022年、朝日町立図書館で最も読まれた本ベスト30を、「一般書」「児童書」それぞれ紹介。

新刊案内

【その他の新刊】

▼教諭／柚月裕子 ▼月の立つ林で／青山美智子 ▼骨灰／沖方丁 ▼闘え！ミス・パーフェクト／横関大 ▼うさぎ玉ほろほろ／西條奈加 ▼風の値段／堂場瞬一 ▼見果てぬ王道／川越宗一 ▼星と龍／葉室麟 ▼秋麗／今野敏 ▼踏切の幽霊／高野和明 ▼チンギス紀15子午／北方謙三 ▼黒石／大沢在昌 ▼収容所（ラゲリ）から来た遺書／辺見じゅん ▼江戸一／新門井慶喜 ▼すずめの戸締り／新海誠 ▼祝祭のハングマン／中山七里 ▼うま／馬に乗ってこの世の外へ／井上ひさし ▼名探偵のままでいて／小西マサテル ▼土を喰ふ日々／わが精進十二カ月／水上勉 ▼村上祥子80歳私がいつも食べている季節の保存食／村上祥子 ▼電力崩壊／竹内純子 ▼このミステリーがすごい！2023年版／2022年のミステリー＆エンターテインメントベスト20 ▼雅子さま麗しき愛と絆30年の輝き ▼日本史を暴く！戦国の怪物から幕末の闇まで／磯田道史 ▼パンどろぼうのせかいいいおしい！パン／吉永麻衣子 ▼徳川十六将／菊地浩之 ▼あらわれしもの／最上平 ▼かばちやスープのおふろ／柴田ケイコ ▼ちびっこまじよのチット／たんじあきこ ほか

【地図と拳】



「地図と拳」
小川 哲 著
集英社



第168回直木賞受賞作
「直木賞 受賞作」
山田風太郎 著
山田風太郎賞受賞作

【この世の喜びよ】



「この世の喜びよ」
井戸川 射子 著
講談社

【荒地の家族】



「荒地の家族」
佐藤 厚志 著
新潮社

戸籍のまど

Asahi town

12月1日～1月31日届出

Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
助ノ巻	清 野 雅 月	男	大地・新菜
小 原	佐 藤 椿	女	泰貴・真子

Marriages

おしあわせに

根岸 遼
(大江町)



成原 佳紀
(前田沢)

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
西 町	長 岡 啓	とし子 志 春
新 宿	今 井 きの	広 千 浩
松 程	鈴 安 初 浩	利 弘 一
杉 山	熊 谷 藤 喜 太郎	順 本 健 満
四ノ沢	原 安 鈴 木 田 昌 子	人 一 人
松 原	大谷第二 沼 程	本 トシ子 一 地
大谷第二 沼 程	長 松 前田沢 大谷第三 程	知 新 勝 本 千 本 人
大谷第三 程	松 西 柴 田 喜 賢 浩 正	本 人 春 人 人
大 滝	元 芦沢 大 清 鈴 木 部	本 人 春 人 人
下芦沢	元 小 西	本 人 春 人 人

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●令和5年 1月31日 現在

※()内は11月比

人 口	6,189 人 (-23)
男	3,076 人 (-14)
女	3,113 人 (-9)
世帯数	2,348 世帯 (-7)

----- 12月～1月中の異動 -----

出生	2人	転入	15人
死亡	27人	転出	13人

(※外国人を含む)

こないのリンゴさん (347) ホリイ



新たなレクリエーション
スポーツを紹介!
ニュースポーツ体験会

1月26日、自治公民館館長・主事研修が開催され、その前段としてニュースポーツ体験会が行われました。今回、各地区の公民館館長・主事の皆さんが体験したのは、ダーツ、カラーリング、モルックの3種類。モルック(上写真)は木の棒を投げ、同じく木でできたピンを倒してピンの数もしくはピンの番号を足して50ちょうどになるのを狙うシンプルなルール。体験した方々は「シンプルで分かりやすく、面白い」と話していました。教育委員会ではカラーリングは1セット、モルックは3セットを貸出しています。ぜひご利用ください。

生活習慣病を初期段階で発見 健診を受けて健康維持を!

【令和4年度 第10回】
今月の担当…布施 真好 主事補

令和4年度の町の健診が1月で終了しました。みなさんは健診を受けましたか?

令和3年度の朝日町の国民健康保険加入者の特定健診受診率の割合は62%と山形県内で7番目に高い受診率でした。しかし、約4割の方は未受診であり、特に40代50代の方の受診率向上が課題となっています。

健診結果を見ると、高血圧と判定された方の割合が58.4%、高血糖と判定された方の割合が49.8%と、それぞれ受診者の約半数を占めています。高血圧や糖尿病などの生活習慣病は初期の段階では自覚症状がなく、知らない間に進行していきます。そのまま放置しておくと、命に関わるさまざまな病気を引き起こす可能性が高まります。40代からは生活習慣病を発症しやすくなるため、働き盛りの40代50代の方も、健診が重要になってきます。

生活習慣病の予防には1年に1回健診を受け、健診結果を見て自分の体の状態を確認することが効果的です。健診結果で再検査が必要な項目があった場合は放置せずに、必ず医療機関を受診しましょう。数値に異常がなかった場合は、前回の結果と比較して悪化している数値に注目し、現在の生活習慣を見直ししましょう。

1月に来年度の健診の申込書を全世帯に送付しました。町の健診は費用の補助があり、お得に受けることができます。若い方だけでなく、高齢者の方も自立した生活を維持するために定期的な健診で健康状態を確認しませんか。申込みは随時受け付けていますので、健康福祉課までご連絡ください。

▼問合せ先
健康福祉課 保健医療係
☎67・2116

町全体が博物館! 朝日町エコミュージアム サテライト散策

サテライト散策連載終了を迎えて…

平成元年、朝日町にエコミュージアムの考え方が導入されてから今年で34年になります。その間、町全体を「環境と住民の関わりを探し表す博物館」ととらえ、住民の皆さんの情報をもとに調査し、まとめ、表す活動を続けてきました。そして、これまで知らなかった「朝日町のよさ」がある多くの場所を見つけることができました。エコミュージアムではそのような現地見学ができる場所のことを「サテライト」とよんでおり、それらを紹介するためにこのコーナーを62回に渡り連載してきました。

そのうち40回までの分は、令和3年3月に「朝日町エコミュージアムの小径第20集」としてまとめた冊子を発行・頒布しております。なお、残りの分もいずれまとめたいと考えております。また、連載中に当初予定していたサテライトの他に、町内の各地区で自然や文化遺産を整備する動きもあり、新たなサテライトとして紹介することができました。このような動きが今後も続くことを期待しておりますので、いずれ、この続きを紹介できればと思っています。次号からは新しい連載がスタートします。そちらもよろしくお願いします。

NPO 法人朝日町エコミュージアム協会理事長 長岡信悦

【一言メモ】朝日町エコミュージアムの小径第20集は創遊館エコルームや道の駅あさひまち「りんごの森」で販売しています。(1部500円)



朝日町公式 LINE アカウントが

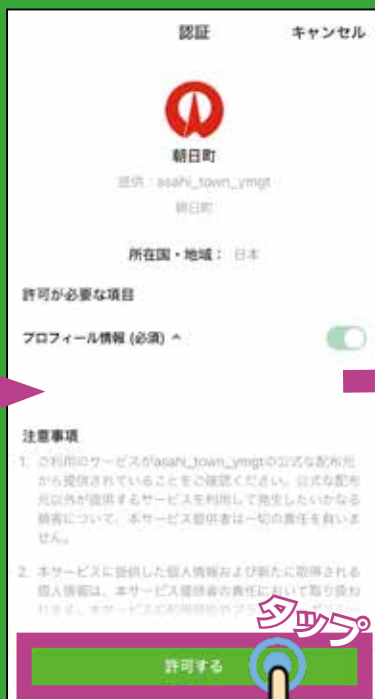
もっと便利になりました！

NEW

朝日町防災情報メールを受け取れます

NEW

自分が欲しい情報だけ受け取れます



受信設定にチェック

注意

2022年11月3日以前に登録した方は「認証を許可」しないとお知らせ情報を受け取れません。

※それ以外の方は設定をせずとも受け取れますが、お知らせ情報を限定したい方は設定が必要です。

▼友だち登録はこちらから



二次元コードをLINEアプリの「友だち追加」画面から読み取り、「追加」を押して登録。

先日審査結果が発表された山形県市町村広報コンクール「広報紙の部（町村部）」で特選をいただきました。町民の皆さんのご理解とご協力に感謝申し上げます。広報紙はコンクールで受賞することを目的に作っているわけでは無いのですが、制作にあたって工夫した点や苦労した点が報われ、何より町民の皆さんの活動が評価されたことを嬉しく思います。今後とも町広報をよろしく願います。

鈴木 貴典

春夏秋冬
編集後記

成長する喜び

今月号では、町で農業を営むということについて特集しました。今回メインで3人の方にお話を聞きましたが、どの方も新しいことに向かって動いていてパワーを感じました。何かを学んでそれを発揮できることは素晴らしいことで、他の人の目から見ても魅力的に映るのだと改めて思いました。農業の楽しさや魅力を語る3人に影響を受け、春になったら家庭菜園を始めようかと考え始める単純な私でした。